

今あるものづくりを その先の未来へ

e 建具

TATEGU

2012

4月号



住宅政策は新築からリフォームへ

国産材をテーマにした構造材と家具作品を紹介

環境面から地場産材活用を訴える

リビングデザインセンターOZONE



国産材で組んだ構造躯体や内装建材

リビングデザインセンターOZONE（東京都新宿区、池田俊雄社長）は2月16日から3月20日までの間、3階OZONEプラザにて「日本の木と共に暮らす」

をテーマとした企画展を実施。日本各地で産出される木材を使った木製品の展示や地域ごとの木材の特色などを解説した。

国産材の産地や国産材による住宅及び家具の製造、木構造躯体の実物展示、無垢フローリングの歩行感覚体験などを通じ、国産木材の質感や



KUMIKO飾り棚

香り、風合いなどを来場者に実感してもらおうことを主眼とした展示内容となっている。家具製品では、茨城県家具建具商工連合会の馬場先秀之氏が「KUMIKO飾り棚」を展示。デザイナーと木工職人とのコラボレーションによって生み出された製品であり、背板に三ツ組手の組子を施し、胡麻柄葉の模様を入れ、背景が透けて奥行きが見える空間演出を意識した作品に仕上がっている。なお、同組合の上野誠氏製作の「KUMIKO花瓶」、埴重徳氏製作の「KUMIKOバスケット」なども展示され、作品演出の役割を担った。静岡県材木販売企業のマルダイ（静岡県富士市、深沢裕一郎社長）は家具デザイナーの小田原健氏のデザインによる木製ベンチを出品。集成加工の三層パネルを使い、豊かな曲線加工を実現した。

会場では日本の主な森林資源の産地を紹介。秋田杉、信州カラマツ、土佐檜など、各地で産出される木材の特徴をパネルで解説した。また、実際の生活空間に国産材の内装を活用した施工例も実物展示し、無垢国産材で作った床材や収納に触れて感触を実感できるコーナーを設置した。